



平成31年度高校入試平均点 = **280.2点**

平成31年度県内の公立高等学校入試一般選抜学力検査の分析結果が秋田県教育委員会高校教育課から発表されました。

5教科の平均は、500点満点で**280.2点**。前年に比べて8.5点下がりました。100点換算では**56点**で、前年度に比べ1.7点下がりました。教科別では、国語、数学、理科で平均点が上がりました。また、社会、英語で平均点が下がりましたが、全教科を通して、基礎・基本を問う問題の正答率が高かったことから、日頃の学習の成果を発揮できたものと分析しています。

出題は、中学校学習指導要領を踏まえ、各教科の目標、内容に即し、基礎的・基本的な事項及びそれらを活用して課題を解決することについて、学習の成果が多面的にかつきめ細かに把握できる出題。また、一部の学習領域に偏らないように配慮するとともに、基礎的な知識及び技能に加えて、思考力、判断力、表現力等も問われる問題が出題されました。

【過去3年間の公立高等学校入試平均点の推移】

	国語	社会	数学	理科	英語	5教科合計
31年度	63.4	48.7	53.7	65.0	49.4	280.2
30年度	57.1	61.7	51.4	64.0	54.5	288.7
29年度	59.2	68.2	51.3	69.5	50.4	295.2

上記の表から、秋田県の公立高等学校に入学している平均的な力としては、各教科において**57.6点以上**、5教科合計**288点以上**の得点が必要です。更に、自分の将来の夢や希望を可能にする高校へ進むためには、あるいは、安心できる余裕ある高校入試にするためには、それ以上の力を身に付けなければならないということになります。近年、高校入試は、「高校に入るため」のものではなく、高校に入ってから、小・中学校9年間で学んだことや身に付けた知識・技能を活用して、「更に高度な内容を学んだり、知識や技能を身に付けたり高めたりするためのもの」であると生徒に指導してきています。ですから、中学校での学習に「これでよい」とか「分らないままにしておいてもよい」ということはしないのです。間違った箇所や分らないところを確認し理解して、しっかりと身に付けることは当然ながら、正解したから解ったと安心せずに、何度も確認したり、応用問題や段階的に答えを求められる問題などに挑戦したりして、基礎学力の定着と活用する力、いわゆる学力の向上に励んでいきましょう。

今後本校では、身に付けた知識・技能を活用する場面を授業の中に意識的に設けるとともに、言語活動の一層の充実を図った授業を展開していきます。授業を大切に3年間で、しっかりと力を付けるようがんばりましょう。

★栄光(おめでとうございます!)

◆第5回フェンシング全国中学生大会秋田県予選会(6月1日)

第4位 : T.Nさん 祝全国大会出場(7/20~22東京駒沢公園体育館)

本を読む習慣を身に付けよう！（図書室de読書）

6月3日（月）～7月19日（金）まで、朝の読書を学級ごとに図書室に移動して行う「図書室de読書」を行っています。朝登校したら教室ではなくそのまま図書室に入り、本を選んで読書をし、そのまま朝の会を行い、終了したら教室に移動し1時間目の授業となります。全校の各学級2回ずつ行う予定で実施中です。読書をする、知識や技能を身に付けることができるほか、次のような効果があるとされています。読書する習慣を身に付けたいものです。

- ①自分が成長する（内容や考え方等を自分に取り入れてみる）
- ②夢をかなえる力が付く（限られた時間で膨大な情報量を効果的に吸収する）
- ③課題解決する力が付く（今や将来起こる問題をクリアするため自分で考える）
- ④情報や知識を体系立てて、効率的に覚えたり学んだりできる
- ⑤言葉が増え、意思疎通ができ、理解可能な世界が広がる
- ⑥自分の考えをもてる（必要なことを収集したり、選択したり情報処理できる）
- ⑦ひらめきが生まれる（これは使える！試してみよう！これならどうだ？など）

力の限りを願う「思い」を伝えました(総体壮行式)



6月18日（火）午後から体育館で、令和元年度大曲仙北中学校総合体育大会に出場する選手の壮行式を全校生徒で行いました。保護者や家族のみなさんからもたくさん参加いただきました。

オーケストラ部が演奏する「燃える闘魂（行け行け角中!）」の入場曲にのって各部プラカードを先頭に選手団が入場し、式がスタートしました。

総合司会の生徒会副会長が開式を告げると同時に花火が打ち上げられ、オーケストラ部のファンファーレも演奏されました。

続いて、執行部全員で作成したスライドショーで各部のこれまでの活動シーンなどが紹介されました。

次は全校応援で、エール、団歌、「古伝コール」、勝利のウェーブを応援団員がリードし全校で心を込めた大きな声で応援し合いました。応援団長からの応援メッセージも添えられました。

更に、中学生の先輩方の晴れ姿を見ようと、また応援するために駆け付けてくれた角館、白岩、中川の3小学校それぞれの代表からと、本校の生徒代表のK.Sさんから激励の言葉をもらいました。感動し気持ちが最高に高まったところで、各部代表から選手の決意の言葉が熱く述べられました。

最後は、黄金色にかがやいているくす玉の紐を各部代表が息を合わせて勢いよく引っ張るとみごとに割れて、「照らせ勝利への道筋 太陽のもと集え角中魂」と書かれた垂れ幕が中から現れました。

執行部と文化部のみなさんが今まで長い時間、心を込めて準備してくれたおかげで、壮行式が感動あふれるものになりました。更に選手同士の応援、決意表明やパフォーマンスも大変立派でした。選手団はこの感動を胸に、各競技種目において、これまで培ってきた技と力、そして精神力、そして感謝の気持ちの集合体、いわゆる角中魂を遺憾なく発揮し、活躍してくれと思います。終了後に生徒会長が会場の方々に今年度の生徒の取り組み（チーム角中等）とお礼を述べて締めくくってくれました。



**3年生にとっては最後の大会がはじまります！
これまで以上のご声援をお願いいたします！**